

学校教育目標	夢と希望をもち、21世紀を生き抜く児童生徒の育成
育成を目指す資質・能力	「創造」探究力 「自主」自己肯定感・自己有用感 「協働」他者とかがわる力

	学力状況について	学習状況について
児童生徒の課題	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 領域では国語「情報の扱い方に関する事項」「読むこと」と数学「図形」に課題が見られる。観点では、高学年になるにつれ、思考・判断・表現の正答率が半分程度になっている。学習内容と日常生活での事象が結び付きにくい。	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 自分で学び方を考えたり工夫することは苦手な傾向が見られる。また、課題の解決に向けて、自分で考え、主体的に学習に取り組んでいる意識は高くはないことが分かる。
	これまでの学力向上の取組に対する児童生徒の状況(授業及び授業以外の側面から) ○単元末テスト・定期テストにおいて、前期課程は60点以下を7%以下、後期課程は30点以下を13%以下にするという指標を掲げ、低学力層の引き上げに取り組んできたことで、各学年とも達成できている。(前期課程5%、後期課程7%) ○家庭学習時間が十分とはいえない。 ○ペア学習や班学習に一定の効果は見られるが、まだ改善の余地がある。 ○めあてをもって授業に臨んでいる。	
指導の状況	1 組織的な授業改善の取組状況 ・「導入」「展開」「終末」の学習過程における「展開」を中心に「生徒指導の三機能」を生かした授業実践 ・児童生徒が主体的に取り組める「めあて」や「課題」の設定になっているかを視点とした互見授業 ・ペア学習、班学習を多く取り入れ、主体的に授業に参加している意識をもたせるとともに、伝え合うことを大事にした授業実践 2 その他の学力向上に向けた指導の取組状況 ・昼休みや放課後の時間を活用した補充学習 ・思考力や表現力、読解力の向上が図れるような週末課題や家庭学習指導	

学力に関する達成指標

単元末テストや定期テストにおいて前期課程は60点以下を7%以下、後期課程は30点以下を13%以下にする。

	【授業改善】	【家庭・地域との協働】
今後の具体的な取組	〈授業改善のテーマ・重点〉 (授業改善テーマ) 主体的に学び、思いを伝え、進んで問題解決ができる子どもの育成 (授業改善の重点) ・「導入」「展開」「終末」の学習過程における「展開」を中心に「生徒指導の三機能」を生かした授業実践。	
	〈取組内容〉 授業改善の取り組み ○「導入」「展開」「終末」の学習過程における「展開」を中心に「生徒指導の三機能」を生かした授業実践 ○児童生徒が主体的に取り組める「めあて」や「課題」の設定になっているかを視点とした互見授業 ○授業の5原則の徹底	〈家庭・地域の取組内容〉 ○家庭での対話・声かけ ○読み聞かせ ○学習支援(昔の遊び・生活の体験、校区探検の見守り、米作りなど)
	〈取組指標〉 ○「生徒指導の三機能」を生かした授業展開 教職員アンケート85%以上 ○プレート(本時の目標・課題・今日の流れ・まとめ・振り返り)を活用した授業展開100% ○毎時間、授業5原則に基づく学習指導の実施(2分前着席、私語なく集中、しっかり聞く、はっきり話す、自ら学ぶ) ○互見授業実施計画に沿った互見授業の実施年1回	〈家庭・地域の取組指標〉 ○読み聞かせを学期に1回 ○学習支援を学期に2回
	〈検証指標〉 ○「授業が分かりやすい」児童生徒の肯定的評価90%以上 ○「児童生徒が進んで考えを伝え合うことができるような学びあいの工夫をする」教員の肯定的評価85%以上	
		【授業改善以外の学力向上の取組】 ○補充学習の実施・個に応じた指導・習熟度別の宿題(低学力層の底上げ) ○読書指導